

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南小倉 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

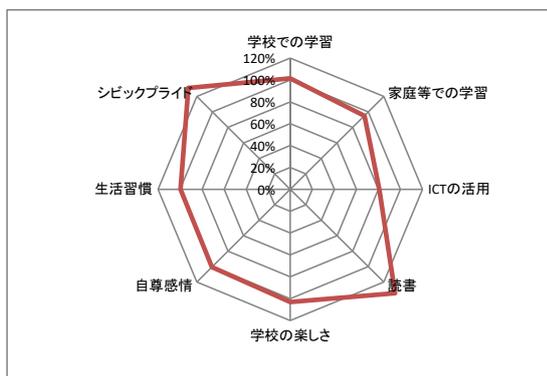
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	昨年度と比較すると、「情報の扱い方に関する事項」は8.1ポイント、「書くこと」は2.9ポイント改善した。一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は6.1ポイント、「読むこと」は8.7ポイント下回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「歴史的仮名遣いに関する問題」「意見と根拠など情報と情報との関係についての問題」	
	努力が必要な問題	「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える問題」	
数学	全体的な傾向や特徴など	昨年度と比較すると、「関数」は1.4ポイント改善した。「数と式」は1.6ポイント、「図形」は1.3ポイント、「データの活用」は7.4ポイント下回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「数と整式の乗法の計算」「反比例の意味」「四分位範囲の意味」	
	努力が必要な問題	「自然数の意味」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」	
英語	全体的な傾向や特徴など	「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の全領域で全国平均を下回った。特に「読むこと」と「書くこと」の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「情報を正確に聞き取る問題」	
	努力が必要な問題	「社会的な話題について、短い説明の要点を捉える問題」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○「今住んでいる地域の行事に参加している」の問いに対して肯定的な回答をした生徒の割合が67.5%で、全国平均の約1.8倍であった。この問いを含めたシビックプライドに関する項目の問いは全て全国平均を上回った。</p> <p>○読書が好きで、読書の習慣が身に付いている生徒の割合は、全国平均を大幅に上回っていた。</p> <p>○家庭学習では、自分で計画を立てて勉強をしている生徒は多かったが、土日等の学習時間が全国平均より約17%少なかった。</p> <p>○「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の問いで、全国平均より44%低い結果であった。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

基礎・基本的な内容の定着は、全体的には進んでいるが、内容によっては大きく下回っている内容もあるため、授業改善および学習内容を定期的に見直す機会を設ける必要がある。また、全教科において、目的に応じた思考や説明が苦手な傾向がある。全職員で授業改善や出題内容の改善をより進める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

土日等の家庭学習をより充実させるために、自主学習ノートのや週末課題等の取組をより工夫して行う必要がある。また、ICT機器を家庭でも活用できる取組を進めていく。生徒が自分の学習活動を振り返る場面を増やしたり週末課題等の内容を改善したりする。